

## 基本理念

**「気づき、つながり、届き、支えあう、たつせがあるまち ながくて」**

本市では、第1次計画策定後、福祉制度の充実に加え、CSWの配置や見守りサポーターの養成などにも取り組んできましたが、ダブルケアや8050問題といった同一世帯に複合的な問題を抱えていたり、縦割りの制度の狭間に陥ってしまったりと、地域福祉に関する課題やニーズはこれまでにないスピードで複雑化、多様化が進んでいます。こうした課題への対応には、これまでの価値観とは異なる人口減少時代を見据えた福祉のあり方を考えていかなければいけません。

そのためには、これまで以上に地域における問題を発見し、それを市民・事業者・行政が「我が事」として共有し、その問題解決にむけて様々な支援を届け、地域として支えあう仕組みづくりや、それぞれが役割を担い、生きがいをもって自分らしく暮らせる場所、居場所がある「たつせがある」まちづくり、すなわち「地域共生社会の実現」を目指します。

以上の考え方をもとに、基本理念は第1次計画に引き続き、「気づき、つながり、届き、支えあう、たつせがあるまち ながくて」と定めます。

### **基本目標1 みんなが「気づく」きっかけ、場があるまち**

生活に困っている人が抱える問題について、すべてを行政が把握することは困難です。「最近、近所に住んでいるあの人の元気が無い」など、身近でなければ発見ができない、地域の中で生活している人にしか見えない問題もあります。なかには、本人やまわりも問題として気づいていない、自らSOSを発信できずに、悩みを抱え込んでいる人もいます。

そのため、小さな声も拾えるように他人に関心を持つことや、わずらわしさをいとわず、声をかけるなど「おせっかいさん」になることも大切です。いつまでも住み慣れたまちで安心して暮らし続けていくために、お互いに見守り、何かあったときに気づいてもらえるまちを目指します。

### **基本目標2 みんなが「つながる」楽しさを知るまち**

地域には、家族や友人をはじめ、たくさんの人や集まり、活動などがあります。そして、知り合うきっかけは、あいさつであったり、活動に参加するなど様々です。つながることで楽しみや話し合いが生まれ、支え合えるような土壌ができていきます。

また、困りごとや悩みごとは人によって様々で、どこに相談したら良いかわからず適切な支援に結びつかないことがあります。誰かの困りごとや悩みごとに気づいたときに、相談を聞いて一緒に考えたり、必要に応じて専門家につなぐことが大切です。なかには、公的なサービスの対応では限界があるものでも、困っている人と地域で手助けできる人がつながることで解決できる問題も存在します。

市民や地域、行政、事業所、団体などがつながり、支援に結び付けていくために、いつでも気軽に相談ができるまち、問題の解決にむけて、ともに協力し合えるまちを目指します。

### **基本目標 3 みんなに「届く」安心なまち**

すべての人が、住み慣れた地域で、自分らしく、安心して生活できるようにするためには、市民の「気づき」や「つながり」によって把握された地域課題の解決に向けて、それぞれのニーズに応じた適切なサービスが包括的に提供される必要があります。

生活全体を見据えた専門的なコーディネーターによる個別ケアを軸に、市民と行政等が協働で包括的に提供する体制づくりを通して、人権やサービスの質・情報など、利用者に支援が「届く」仕組みを実現します。

生活課題や困りごとは複雑化・複合化しており、その解決においては、従来の「縦割り」の考え方では十分に行き届きません。そのため、庁内の連携促進による切れ目ない支援が利用者に対して届くまちを目指します。

### **基本目標 4 みんなで「支え合う」喜びを知るまち**

困りごとを解決したり、支援していくためには、公的なものだけでなく、地域で生活している人や自治会、ボランティアなど様々な関わりが欠かせません。東日本大震災、熊本地震、平成 30 年 7 月豪雨などでは、災害などの発生時、その後の復興での長期継続的支援において、日頃の近所での支え合いが大切であることが再認識されています。

そのため多くの人が地域の活動に参加し、困りごとを気軽に相談できるような関係づくりを進め、市民や地域、行政、事業所、団体など、みんなが協働してお互いに支え合えるまちを目指します。

### **基本目標 5 みんなに「たつせがある」成長できるまち**

みんなが福祉や人とのつながりに関して学び、考え、行動していく気持ちが増えれば、地域福祉はより一層推進していくことになります。

また、一人ひとりに役割と居場所があれば、その人らしい活躍の場（「たつせがある場」）が生まれ、より楽しく、健康でいきいきと暮らし続けることができます。

そのように、だれもが地域の中でそれぞれに役割と居場所がある「たつせがある」まちを目指します。